

株式会社大林組における デザインとその保護の取り組み

株式会社大林組 設計本部 設計ソリューション部 知的財産担当 柏瀬孝子

1 大林組について

1892年、大林組は土木建築請負業「大林店」として大阪で創業しました。1904年に店名を「大林組」に変更、その後、1911年に東京中央停車場（現在の東京駅）を受注し、それまで関西企業と見られていた当社が全国的事業者としての地位を確立する契機となりました。

1935年に「現場従業員指針」を刊行し、この巻頭に明記された「良く、廉（やす）く、速い」は「三箴（さんしん）」と呼ばれ、いまなお工事現場のみならず、全社員の大切な指針となっています。

第2次世界大戦後は、近代的な建設手法を確立していくとともに、海外への進出も始め、1970年代には、タイ大林およびジャヤ大林を設立しています。

1990年に新社章（現在の社章【図1】）を制定しました。「人と地球の潤い豊かな調和を願い、果て

しなく続く美しい地平線や水平線の彼方に大きな夢を託しつつ、逞しく未来を創造する私たちの心」を表しています。また2020年には、大林グループブランドビジョン「MAKE BEYOND つくるを拓く」を策定し、ものづくり企業としての姿勢を示しています。

また、大林組では、災害時における社会基盤等の早期復旧は建設会社の大きな使命と考え、様々な復旧支援を行ってきました。

東日本大震災では、多くの資機材を搬送し、支援要員の派遣を実施しています。また、南三陸町に診療所6棟を設置し、ここにはイスラエルの医療チームが派遣されたとして、話題にもなりました。

熊本地震の際には、熊本城天守閣復旧整備工事の設計・施工を請負いました。そもそも被災した熊本城は、西南戦争（1877年）の際に焼失し、1960年に大林組の施工により再建したものです。2021年4月に震災前の姿によみがえりました。

2023年3月末での資本金は577.52億円、従業員数9134人、2023年3月期連結売上高は、19,838億円です。

●図1 現社章（コーポレート シンボル）



2 当社のデザイン活動

建築の世界では、設計（デザイン）は、意匠設計、構造設計、設備設計の3つに分かれます。意匠設計は、外観、内装、間取りなどを設計するもの、構造設計は、建築物の強さを設計するもの、設備設計は、空調、配管等を設計するものです。人の体に例える